

プロローグ

3つの夢

私は今、3つの夢を持っています。1つ目と2つ目は、とても個人的な夢です。夢というより、希望と言ったほうがいいのかもかもしれません。

1つ目。それは、少しでも多くの人たちに“すごいね”“カッコいいね”“素敵だね”と言ってもらえるような人間になることです。

もう65歳にもなったのに、今さらそんなことを言っているのか、とあきれられるかもしれません。確かにそうかもしれませんが、この“人からほめられたい”という思い（社会的自尊感情 Social Self Esteem：SOSE）は、生まれてからこの方ずっと抱いてきた思いですし、これからも私の生きる力の源泉として大切な思いです。この本を手にとってくださっているあなたが、“すごくよくわかる”“とても役立つ”と思ってくたさるとしたら、私の1つ目の望みが満たされることになります。

2つ目は、身近な大切な人と同じ道を歩みながら、体験と感情を共有したいという願いです。

一人で進んでいくには、人生はあまりに過酷でさびしい道のりです。ですから、いつでも誰かがそばにいてほしい。“スタンド・バイ・ミー（僕のそばにいて）”が願いです。それは心からの切実な願いです。そのことによって、私は大きな力を得て、支えられ力づけられ、倒れてもまた起き上がって進んでいく勇気（基本的自尊感情 Basic Self Esteem：BASE）を持てるのだと思います。

幸いにして、私には家族もいますし、信頼できる若い仲間たちもいます。事実今回も、私の大切な2人の仲間、九鬼種乃さんと望月美紗子さんが力を貸してくださって、この本の後半に貴重な資料を載せてくださいました。ほんの森出版の編集担当である小林敏史さんも、共に歩んでくださる信頼できる人のお一人です。

3つ目の望みは、とてつもなく大きな、そして根源的かつ究極的な願いです。それは、遠くない未来に、この地上から悲惨な戦争や争いがなくなることです。

地球上に暮らすすべての人たちが、虐げられたり苦しめられたりすることなく、そして互いに傷つけあったり殺しあったりすることのない、そんな平和な世界を得たいというのが究極の願いであり、目標であり望みです。そのために、その究極の頂きをめざして、あらゆる学問も研究も一步一步困難な山道を登り続けているのだと思います。自尊感情の研究も、いのちの教育の実践も、私の携わっているあらゆる仕事は、私なりの道筋をたどって究極の頂きをめざす歩みだと信じています。

同じ登山口から登り始めたのに、一時的に離れ離れになって、別の登山道を登っている仲間もいます。でも同じ頂きをめざしているならば、やがて頂上近くまで登ったときには、互いに声をかけあう

ことができ、手を携えあえるところまで近づけるはずですが。同じ思いを持つそんな多くの仲間たちと、同じ頂きをめざしている。そう思えば、今の少しのさびしさは、逆に将来への希望になるように思います。

この本のおもな部分は、『月刊学校教育相談』に2011年4月号から1年間連載したものです。今回、それを1冊の本としてまとめるにあたって、授業に役立つ絵本リストと実際の授業展開の例を加えました。

この小さな本が、自尊感情の理解と、子どもたちを支える活動を続けるための方位磁石になることを心から願っています。

2013年1月 初雪の残る東京にて